

普及活動情勢報告（平成28年1月分）

高吾農業改良普及所

環境制御でニラの収量向上

～ニラハウスで炭酸ガス施用効果を実証中～



1月6日、生産者9名が参加したJAコスモスニラ生産部月例会で、普及所から炭酸ガス施用実証の経過報告を行いました。実証試験では、炭酸ガス濃度を12月5日から日中8～12時まで350ppmを下回らないよう設定し、pF値を目安にかん水量を増やした結果、収量は施用前と比べ1.5倍程度に増加しました。また、懸念されている葉先枯れは発生していません。担当農家からは「かん水回数をかなり増やした。収量が多くなったので次作も期待したい」と感想がありました。普及所では、引き続き、炭酸ガス濃度や生育状況を調査し、施用効果を検証していきます。

ニラの電照栽培試験を実施中

～所得増加を目指して～



管内のニラ栽培では販売単価が高い12月～2月に休眠によるニラの生育鈍化と収量低下が見られ、この時期の出荷量確保が課題となっています。そこで普及所では、23時から2時までの暗期中断による電照を行い、収量や生育に及ぼす影響を調査しています。実証農家からは「電照したほ場では休眠株が減少した。ニラの伸びも良い」といった声が挙がり、電照技術に期待が高まっている様子がうかがえました。今後普及所では、ニラ生産者の所得増加につながるよう、生産者や関係機関と協力して電照栽培の実証試験を継続していきます。

高品質な新高梨の生産維持のために

～黒岩梨出荷組合がせん定講習会開催～



この枝は切るべきか？
切らないべきか？

1月8日、佐川町の黒岩梨出荷組合が、黒岩地区で新高梨のせん定講習会を開催しました。当日は生産者ら25名が参加し、大玉で良質な新高梨いわゆる「土佐の新高」を生産する技術を学び、教えあう場となりました。数人が1本の樹を担当し、前組合長の西村氏を講師役として「この枝は必要、この枝は日当たりが悪くなるので切ろう、この枝は古いので切ろう」「できるだけ新しい枝に更新し、日当たりを考えながら配置していくことが大事。さらに「黒岩梨」のブランド力をもりあげよう。」といったアドバイスや声かけをしながら、せん定を行いました。普及所では3年以下のせん定経験者に技術指導を行うなど、黒岩梨出荷組合に対して、栽培管理全般の指導を通じた「黒岩梨づくり」の振興を支援していきます。

高品質な山椒生産のために ～越知町山椒組合が剪定講習会を開催～



1月12、14日、越知町山椒組合は町内の片岡、野老山、横畠の3地区で生産者ら25名が参加し、剪定講習会を開催しました。越知町は県内でも有数の山椒産地ですが、剪定が充分にできていない園では、実の大きさや生長にばらつきが見られていました。

当日は、普及所職員が講師となり、剪定の基本的な考え方や日当たり・枝の更新等について説明し、生産者の意見も引き出しながら実際に剪定を行いました。組合員からは「剪定を行い高品質で安定した山椒の生産振興をしていこう」との声がありました。

普及所では、技術情報の提供や講習会を行い、山椒の生産振興のため支援を継続していきます。

J A コスモス 斗賀野支所イチゴ部会が青果市場視察を行いました



1月8日、佐川町の斗賀野支所イチゴ部会から5名が参加し、青果市場視察を行いました。当日は斗賀野産「さちのか」をはじめ市場に入荷している他産地のイチゴの状態を確認し、販売情勢や包装形態について市場と意見交換を行いました。

特に、平成28園芸年度から導入されている270gパック規格について、現在の詰め方やセロハンの固定方法などの市場評価を聞き、包装形態の改善方法について検討しました。

普及所ではイチゴをより良い状態で流通、販売できるよう、生産面だけでなく流通面でも情報提供を行うなど、引き続き支援していきます。